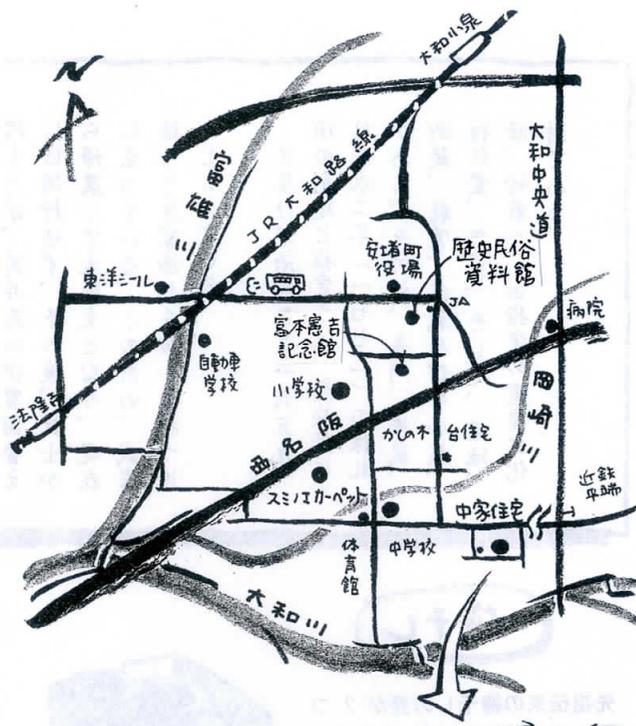


重要文化財  
中家住宅

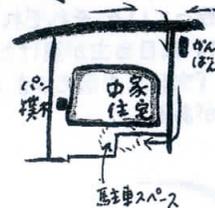


大和棟…庇の上に傾斜の違う茅と瓦葺きの屋根



・交通のご案内

JR 大和路線法隆寺駅から  
かしの木台方面行バス乗車  
かしの木台下車徒歩 10分  
(ただし本数は少ないので、  
駅からタクシーが便利)  
近鉄線の場合、最寄り駅は平端駅



・開館時間

午前 10 時～午後 5 時

・休館日

8 月 1 日～8 月 31 日  
12 月 20 日～1 月 10 日

・維持管理協力金…500 円

・見学は電話にて事前に予約

所在地 〒639-1064

奈良県生駒郡安堵町窪田 133 番地

TEL 0743-57-2284

FAX 0743-57-2295

(蓬萊のやまとに名ある梅干はよろづ代迄もかめの中氏)

ふかふかの梅干は  
よるよるあめの中氏



## 新座敷 (勅使の間)

上質の普請がなされ、特別の来客以外は使われず、保存状態が良い。主屋より床が高く、洪水時にも備えていた。

欄間は、月にむら雲、波に兎、襖は狩野派の絵師による。畳は全て横2列に並んでいる。

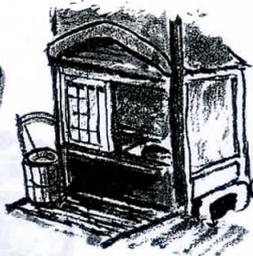


## 入り舟の庭



数年に一度訪れる役人を舟にのせ、観月会等を催して接待していた。

## 蒸し風呂



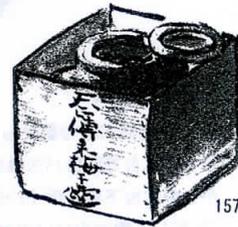
戸棚内部の鉄釜に湯を入れ、下から熱して蒸気をこもらせる。すのこで湯気の調節をし、布を敷いて入る。(風呂敷の始まりといわれる)

中家住宅は、大和川北岸に残る大和地方の典型的な環濠屋敷である。屋敷は二重の濠に囲まれ、内濠と外濠の間は竹藪となり、外観は一見、古墳あるいは神社の森を思わせる。南側の濠は消滅したが、中世土豪の平城式居館の姿をよく伝えている。中氏はもとを足立氏と称し、足利尊氏に従って大和に入り、窪田の姓を名乗ってこの地に居館を定めた。一三九一年には窪田中氏と改め、岡崎、笠目、窪田の地を拝領し、筒井一族の武士として活躍したが、筒井氏の伊賀国替えには同行せず、その後、武士から帰農して大地主となり、現在に至っている。このため、武家造りと農家造りを合わせ持つ造りとなっている。

主屋は万治二年(一六五九)頃の創建と推定され、新座敷には安永二年(一七七三)の棟札がある。その他、表門、米蔵、新蔵、乾蔵、米蔵及び牛小屋、持仏堂、庫裏、そして、宅地、濠、竹藪が、国指定の重要文化財である。

## 梅干し

先祖伝来の梅干しの壺が2つ残っている。それぞれ9代目、14代目当主が漬けたもので、『末代まで伝えよ』との家訓がある。



1576年のもの

泉州の町奉行がこの梅干しを一粒貰い受けた。その息子である鶯亭金升氏(新聞記者・俳人)も又、大切に保存し、梅干しの線を書いたため当家に贈られている。(1902年のこと)



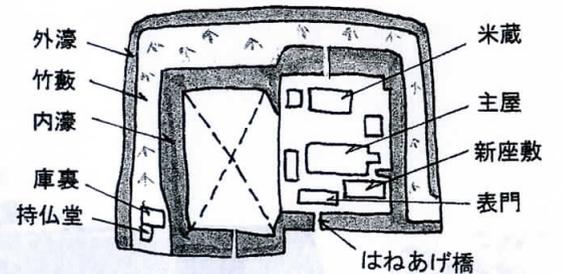
## 持仏堂

華藏院



中家が個人で持つ菩提寺。阿彌陀如来像を中心に諸仏を安置している。

## 配置図

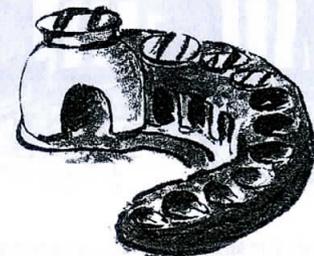


## はねあげ橋

万一の時は中央の板を外し、外敵の侵入を防いだ。



## かまど



11のたき口がある。美しい曲線状に築かれ、勾玉の形をしている。